

## 第2回泉南市総合計画審議会 会議録

日時：令和4年6月23日（木）14：00～

場所：泉南市役所 2階 大会議室

### 1 開 会

### 2 案 件

#### (1) 第6次泉南市総合計画（案）について

##### ①総合計画（基本構想）（案）の概要について

### 3 その他

### 4 閉 会

#### 【出席委員】

和泉委員、北村委員、上中委員、片木委員、上山委員、道場委員、松本委員、若林委員、奥委員、川田委員、中澤委員、前川委員

#### 【欠席委員】

土井委員、山中委員

※順不同

### 1 開会

事務局：定刻となりましたので、第2回泉南市総合計画審議会を開催します。公私ともにご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。本日の出席委員は12名ですので総合計画審議会規則第7条第2項の規定により本審議会が成立していることをご報告します。

#### (資料の確認)

本日は新市長が出席していますので、ご紹介させていただきます。泉南市長の山本優真でございます。審議に入る前に市長よりご挨拶を申し上げます。

市長：平素は本市の行政運営に多大なるご支援とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。また、本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。4月24日の市長選挙におきまして当選させていただき、ちょうど1か月前に初登庁しまして前市長からバトンを受け取りました。泉南市が持続可能で自立的なまちづくりを長きにわたり忠実に行っていく自治体経営をしていきたいと考えています。現在の第5次総合計画は令和4年度に最終年度を迎えますので令和5年度から新たな総合計画を策定する必要があります。この新しい総合計画の策定にあたり市民の方々と

の協働ということで皆様のご意見を丁寧に汲み上げ、つくってまいりたいと思っています。現行総合計画を10年前に策定されたわけですが、また新しく泉南市の10年先を見据えた根幹となる計画を皆様にご審議いただくこととなります。それに基づいて我々が市の運営のあり方について考えていく今後の泉南市の行く末を決める重要な計画ですので、皆様の忌たんのないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(市長退席)

事務局：審議会規則第7条第1項の規定により議長は会長が務めることとなっていますので、和泉会長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 2 案件

(1) 第6次泉南市総合計画(案)について

① 総合計画(基本構想)(案)の概要について

会長：まずは資料の修正点について事務局より説明をお願いします。

【事務局より、資料3・4に基づき修正点の説明】

会長：修正点についてはよろしいでしょうか。

(異議なし)

では本日の案件に入りたいと思います。第1回審議会で事務局より基本構想の説明を受け11ページまで議論が終了していますが、おさらいしますと基本構想とは泉南市のまちづくりの方向性を示す非常に大きなものです。それぞれのお立場から自由にご発言いただいて結構ですが、細かな内容をそのまま基本構想に記すわけにはまいりませんので、その点お含みおきください。市長の挨拶の中に“市民の皆様の意見を丁寧に汲み上げる”というお言葉もあり本日も積極的にご意見を頂戴できればと思います。前回と同様ページを区切る形にしたいと思いますが、12ページから18ページまでで何かございますか。

松本委員：13ページですが、住み続けたい理由の上位項目に「買物など、日常生活が便利」とある一方、住み続けたくない理由の上位項目にほぼ同じ割合で「買物など、日常生活が不便」とあります。これはどういうことでしょうか。

事務局：海側にショッピングモールがあり車をお持ちの方であれば便利だと感じる一方、山間部にお住まいの高齢世帯の方であれば不便だと感じておられるかと思います。意識調査の結果から世代間格差や地域格差という課題がみえてきたと考えています。

会 長：前回も山側と海側というご発言がありました。海側にショッピングモールが集中しており、それが行政課題の一つだと認識しているということで、この辺りは総合計画の中でも触れておく必要があるかと思えます。他に何かございますか。

中澤委員：17 ページ「市民意識からみる現状・第5次総合計画の総括」の最終項目に「10年前と比較して『農業・漁業』について、満足度の相対的な順位が高いまま推移している」とありますが、現状は米や野菜を作る担い手が減っています。10年ほど前は農協が休耕地を希望者に有料で貸していましたが、その希望者が高齢になって作れなくなり返しています。休耕地を今後どうしていくかについて考えていかなければならないと思えます。

事務局：私どもも農業の後継者問題等は行政課題だと思っています。市では農業塾を開いて後継者の育成・創造もしていますが、抜本的な解決には至っていません。このままでは休耕地や未利用地が増える一方ですので10年後を考えた場合その部分と後継者問題が大きな課題になると思えます。この辺りも含め今後の方向性を出していきたいと考えています。

会 長：確かに10年後は今まで以上に高齢化が進むということで農業についても考える必要があると思えます。

片木委員：先ほどの買い物の件と今の農業の担い手について実態ベースの見通しは分析されていませんよね。買い物については山側と海側という漠然とした表現ですが、もう少し分析した資料が要ると思えます。農業の担い手問題についても年度別に農業従事者の就業の見通しをグラフ化するなどの分析データが必要ではないかと感じます。

事務局：個々の施策の実施に関しては実施計画等を作成する中で予算措置を伴う際に細かな数値分析をしようと思っています。今回は基本構想の段階ですので詳細な数値分析はしておりませんが、計画の中に方向性として示された場合、役所の各セクションで分析に入るといった状況です。

会 長：おっしゃったとおり詳細なデータが不可欠ですが事務局の回答としては、今は基本構想の段階のため、予算措置を伴う状況になれば調査に基づき各セクションでアクションを展開するという事です。

片木委員：それでは納得できません。実際に検討する段階でデータを出し分析するのではなく現時点である程度のデータがなければだめです。細かい数値まで出すことはありませんが、ある程度の方向づけがわかるデータがなければ10年後に向けて誰も真剣に取り組まないと思えます。

会 長：ご意見はよくわかりますし事務局も理解されていると思います。事務局におかれてはデータの収集を意識しておいていただきたいというところです。

前川委員：17 ページに「10 年前と比較して『教育』『参画・協働・コミュニティ』『子育て支援』について、満足度の相対的な順位が向上している」とありますが、実際に市内でボランティア活動に従事していると、これとは全く逆の感覚です。現実とかい離しているように感じるので、この文章を鵜呑みにすると必要な施策が打てなくなると思います。14 ページ、住み続けたくない理由の回答項目「治安が悪いから」を「落ち着いて住めないから」に変更したとの説明を受けましたが、意識調査の際には恐らく「治安が悪いから」という項目だったのではないのでしょうか。言葉の持つイメージが悪いからという理由で勝手に変えたとなると、これも現実とかい離してしまいますし、行政側の都合で項目の表現を変えるのはいかがなものかとも思います。

事務局：満足度の調査結果が現実とかい離があるというお話ですが、市民全員ではなく調査対象 3,000 人の中での回答だと認識しています。したがって、これのみを基本にしているわけではなく、委員の皆様のご意見や地域の声等、複合的な要素を含めて考えていこうと思っています。市民意識からみる第5次総合計画の総括ということで、これをそのまま第6次に活用するわけではなく判断材料の一つに過ぎないと捉えていただければと思います。

事務局：「治安が悪いから」を「落ち着いて住めないから」に変えた件ですが、調査票の記入方法としては項目の中から選ぶのではなく自由記述の形にさせていただきました。「治安が悪いから」という項目は集計の際にこちらで作ったものでございます。また、子どもたちの意見の中に「治安が悪いから」と言い切ったものはなく「落ち着いて住めないから」の方がニュアンスとして近いということで変更させていただきました。

会 長：「治安が悪いから」というのは集計段階で事務局が作った言葉でそれを変えただけなので生データを操作したわけではありませんね。調査結果が現実と異なるというお話ですが、皆様それぞれのお立場から問題意識をお持ちだと思います。そこは違うのではないかという意見がここで出たことが大変重要で、それは活かしていきたいと考えます。調査結果を変えるわけにはいきませんが、議論の場ではこういう意見があったというところは押さえておく必要があると思います。

上山委員：市民意識調査は令和3年度実施ということはコロナ禍の真ただ中で、いろいろな制約を受けている中での回答になっていると思います。17 ページの総括に「特に若年層が住み続けたいまちとなるため、子育て・教育の充実を図る取組のさらなる強化が必要」とありますが、子育て世代のニーズが本当に汲み取れているのかと疑問に感じます。泉南市で子どもを産み育て教育していく土壌をいかにつくるかという

ことが見えないので、その辺りを強調する形にされてはどうかと思いました。

会 長：おっしゃるとおりだと思います。詳細については基本計画等に落とし込んでいく形になりますが、その中で今のご意見を反映するような記述ができればと考えます。

奥 委 員：この計画を住民一人ひとりに対しどのように周知していけばよいだろうと思います。市の現状を理解し我が事のように受け止めてもらいたいと考えています。

会 長：みんなのまちをみんなで考えるという最も大事なことです。 “我が事のように受け止めてもらう” というのはそのとおりだと思います。

川田委員：17 ページ「各種イベント・講座の開催など、市民協働のきっかけづくりとなる取組の成果」に関連した話をさせていただきます。私は子どもがいる主婦でハンドメイドの販売を生業にしているのですが、他にもそういう方がいて、泉南市でハンドメイドのイベントも開催されています。ハンドメイドの講師もしており、タマーロというカフェを月に1回お借りして教室を開いているのですが、泉佐野では教室に改修した古民家を誰でも借りられるようになっており、泉南市のハンドメイド仲間は皆そちらを利用しています。泉南市にもそういう場所ができれば阪南、岸和田、貝塚辺りの人々をこちらに引き込めると思いますし、地元でこういうイベントを自分たちで開いているという誇りを持って自信にもつながります。ハンドメイドをしておられる方はとてもいきいきしていて、販売を通し地域の人とふれあってコミュニティのような広がりをつくっている方が多いので、そういうところにフォーカスしていただければと思います。前回の審議会で空き家問題が出ていましたが、泉南市にも改修する価値のある古民家があると思うので、市の方と私たちのようなハンドメイドに携わる者が一緒に産業の一つとして取り組んでいけば市の活性化にもつながるのではないかと考えています。

若林委員：文化協会代表として来ています。文化ホールの存続問題が降って湧いたように持ち上がり市民は現実には起きている問題を知らずに過ごしていたと実感しました。協会は文化ホールが拠点になるので、皆様のご協力を得て署名活動等をさせていただきました。こういう問題が起こっていることを知った皆さんがどうかしたいと思っただけで、署名以外にもさまざまな協力の申出をいただいたので、泉南市は素敵なお所だと改めて感じました。住民は結構力を持っているので、行政の支援による掘り起こし等でその力を出せるようになればと思います。川田委員がおっしゃったように泉南市には力のある人がいるのにそれを地元で発揮できないことをもったいなく感じています。そういう人が他市や他県に行って活躍されていると知り、悔しい思いをしたことがあります。コーラスグループが公民館利用を申請したところ夜間に歌はだめと言われ泉佐野で練習しているそうですが、この問題は10年後と言わず工夫次第ですぐ解決できると思いますし、住民が実態を知ることが大事だと考えています。海側は便利と一括りにされるのも納得できません。イオンが出来て便利な

部分はありますが、小さなお店は全部潰れました。徒歩しか手段のない方は買い物難民になっているので片木委員の言われたように丁寧に分析して計画を立ててほしいと希望します。

道場委員：文化ホールがなくなるかもしれないと聞いて何という市かとみんなで話しています。海側はイオンが出来て便利になり、山側は不便というお話も出ましたが、バラ園やわいわい村等の施設があっても中途半端な感じがします。バラ園自体は素晴らしいのですが、歩いて見て回るだけなので喫茶店等の休憩する場所を造っていただければと思います。市役所の前に中学校がありますが、イベントの際に校庭をお借りすることはできないのですか。イベントは海側で開催することが多く山側の者は観光バスを使わざるを得ず、不経済なので中学校を貸してもらえればと私の会でも話しています。

事務局：子育て世代の働き方について、泉南市では企業誘致に力を入れています。パートタイムでも働きやすい環境づくりや託児所の整備について現在交渉しているところです。ハンドメイドに関しても泉南市内にはものづくりをしておられる方が多く、いろいろなグループがあります。今年度から市主催のイベントの際にもものづくり系のブースを設置しており、場所はロングパークやローズガーデンです。泉佐野市が民間主導でされているものづくり工房のようなものがあるのですが、それにもチャレンジしており、秋ぐらいには公表できると思います。空き家対策もいろいろなことを踏まえてリノベーションできればと市内でも考えています。私どもは発信が苦手なのですが、市民の力をお借りしつつ取り組みたいと思っています。文化ホールの件はセンシティブな問題で廃止も選択肢にありましたが、皆さんの想いもございますので議論は続くと思います。ローズガーデンに飲食コーナーがあればよいのですが、いろいろな制約があり、設置不可能となっています。学校につきまして土日は校庭開放していますし、夜間は体育館を使用できますが、本来の学校運営を大事にしたいという思いや子どもたちの安全対策もあります。今後は地域の方に開放するなど、より利便性が上がることを付加して施設整備をしていくというのが鉄則になると思います。

川田委員：ローズガーデンの話が出たので、お聞きしたいと思います。YouTubeの「カーメン君ガーデンチャンネル」という番組でローズガーデンの紹介をしているのですが、日本でデビッド・オースチンのイングリッシュローズガーデンがあるのは泉南だけですよね。それはすごいことだと思います。インタビューを受けていた方が泉南市との関係を少しお話しされていたのですが、市はどの程度絡んでいるのでしょうか。

事務局：ローズガーデンは花咲きファームのエリアの一部を活用する形でデビッド・オースチン氏が運営されています。市として直接的な運営費補助はしていないのですが、ローズガーデンでのフェスティバルの際、役所内にシャトルバス用の臨時駐車場を開設し、バスにかかる費用を負担しています。ふるさと納税にもご協力いただいて

周知しているのですが、氏は人を集めることを好まないようで大々的なプロモーションをしないという取り決めがあり、もったいないのですが気持ちを尊重しなければと思っています。ネット発信はしており、コアなバラ好きの方をターゲットにと考えているところです。

中澤委員：買い物難民の件ですが、阪南市ではそういう方のために車での送迎ボランティアがあります。泉南市も山間部には買い物難民の方が多いので、ボランティアを増やすための話し合いを行政と市民との協働で進められればと思います。

会長：今のご意見を参考にさせていただきます。一旦今までのご意見をまとめます。それぞれのお立場からのご発言ありがとうございます。現場の声とアンケート調査等の結果に差があるのではというご意見が出ました。おっしゃるとおりかもしれませんので行政展開していく中で並行して調査し、皆様のご意見を吸い上げ、適宜修正しながら進めていくという文章をどこかに記載できればと思います。川田委員からハンドメイドのお話がありました。これまで地域や組織、団体については行政も取り上げていましたが、今は個人でいろいろな活動をされています。若林委員から出た有能な人材が豊富にいるというお話にもつながるのですが、焦点を地域、組織、団体から個人レベルに落とし込んだ政策展開ができる計画にしていく必要があるかと思いました。奥委員からは“我が事のように受け止めてもらえるような”若林委員からは“知るとどうにかしたいと思う市民がたくさんいる”というお話がありました。

この総合計画を立てていることを周知していく必要がありますし、策定後もみんなですべてをつくっていくところをPRする方策も盛り込めればと思います。

北村委員：16 ページにあるように、教育を充実させていかなければなりません。偏差値が上がれば上がるほど子どもたちは名門大学や一流企業を目指し都心に出てしまい、さらには海外に渡るケースもあります。14 ページを見ると小学生より中学生の方が定住意向について低い傾向があるので受験教育も必要ですが、地域教育をどの程度されているかという点が気になりました。愛着度を育てる教育を学校でされているのでしょうか。泉南で教育を受ければ受けるほど外に出ていく志向になってしまうとすれば、そこにメスを入れていかないと頑張った子ほど帰ってこない可能性があると思います。

事務局：学校で地域教育という授業科目はございませんし、行政としても子どもたちに対するアプローチがまだできておりません。先日ありました市と教育委員会で協議する場において我々からそういったことの問題提起をしたところです。本市の場合、子どもの人口は自然減よりも社会減の方が多いのですが、泉南に郷土愛を持っていただいている方はふるさと納税という形を取ってくれます。シビックプライドの醸成ということでは学校との調整に入らせていただいています。

北村委員：ふるさと納税を通して外に出た人からの郷土愛はわかっても、中の人にはふるさと納税ができません。13 ページ「現在住んでいるところに愛着がある」という項目ですが、平成 22 年度調査では 40.2%で令和 3 年度調査では 33.4%と減っています。これは問題がある数字で、ここが上がらない限りは多分出ていくばかりで入ってこないと思います。この 33.4%をどう判断すればよいかというのも気になります。周辺の市町村や大阪府全体、全国と比べて高いか低いかという分析はされていますか。

事務局：本来は他市等との比較をするべきですが、できておりません。愛着があるとお応えになった方は、各市町若干ばらつきはありますが、ほぼ 3 割以下です。

北村委員：どの自治体でも計画策定の際にはアンケート調査を行いますからこういう数字は持っているはずなので、そこと比較していただければと思います。このアンケートもそうですが、住み続けたいという言葉がよく出ています。中の人が出ていってほしくないという発想が多いのですが、外から入ってきたくなるような部分がこの計画全体から見えてきません。企業誘致の話もありましたが、企業の方が泉南市に来たがるためにはどうするかという部分と周りとの比較が必要ではないかと思いました。

若林委員：上山委員がおっしゃっていたように、この調査はコロナの影響を大きく受けているような気がします。福祉委員会でも小学生との交流事業等の年間計画を細かく立てていたのに、この 2 年間はみんな集まることすらほとんどできませんでした。岸和田のお祭りは地域に対する愛着とつながっていると思いますが、泉南も各地域にお祭りのやぐらがあります。この 2 年間子どもたちは経験できていません。子どもがこの地域を好きになるには伝統文化や魅力的な大人と出会いつながることが大きいのではないかと考えています。コロナで学んだ点を活かしつつ何とかしてつながっていくことが大事ではないでしょうか。地域教育という言葉が出ましたが、地域のことや人を子どもたちに知ってもらうチャンスを仕掛けていく必要もあると思います。学校も今までは門戸を開いていましたが、コロナの影響で私たち市民が学校現場に入らせていただく機会も減りました。そこをどのように復活させるかというのが子どもたちにとっても大事なことはないかと思っています。

事務局：北村委員からはわかりやすい分析の手法と泉南市が目指すべき方向性等を端的に伝えていただきました。人を増やすためには今お住まいの方に住み続けたいと思っていただくことや企業誘致だけではなく他の市町から人を呼び込むという発想が確かに大事で、その視点を強化したいと思います。

会長：北村委員の地域教育のお話やこれまで皆様から出た現場のご意見を 27 ページや 29 ページ辺りに文章で記載することは可能でしょうか。12～18 ページの調査結果等は当然そのままにしておきますが、この審議会では別の意見が出たということで、それを踏まえたような文章をどこかに書けますか。



事務局：今まで出たご意見やご指摘等について文章化できる部分に関しては工夫してみます。地域教育に関してもキーワード的には有りかと思うのですが、学校教育そのものに踏み込むのは難しいので付加価値としてどういったものができるかを考え表現を検討させていただきます。

上山委員：私は福祉に携わっているのですが、個人情報の壁がだんだん高くなっています。福祉が必要と感じる人が実際どういった状況にあるか知りたくて行政に情報提供をお願いしても個人情報保護を盾に断られ、それより先に進めません。個人情報は大切ですが、中には提供が必要なものもあるはずですが、今後の個人情報の発信のあり方についてお聞きしたいと思います。

事務局：個人情報の扱いはデリケートなものです。いろいろな考え方はありますが、私ども個人情報を扱う者としては今のルールを遵守したいと考えています。個別の対応は厳しく役所全体として国や法律の下で扱うようにしていきたいと思っています。

上中委員：文化ホールの話が出ていましたが、昨日請願書が受理されたようです。私は第5次計画の策定にも携わりましたが、この資料で総括してくれていますが、現実とはかけ離れていますし10年前とほとんど変わっていません。この10年緊縮財政の中で頑張ってきたのはわかりますが、これからの10年も緊縮財政のままでは安心・安全で魅力あるまちづくりなどできそうもありません。新市長には積極財政を望みます。我々が立てる第6次計画の実現はトップ次第だと思うからです。治安が悪いという項目を違う表現に変えたと話されていましたが、実のところ治安は悪くなっています。暴走族がイオンの駐車場にたむろしているようで、前市長はモスキート音を流すと言っていたのですが、それでは解決になりません。環境を改善していかないことには決して泉南市の発展はなく、恐らく住みよいまちにもならないと思います。

松本委員：現行計画は10年前に立てられたわけですが、10年たって情報化社会となり時代は変わっています。文化ホールが閉館するのではという話になりましたが、市民の意見を聞き、話し合うチャンスを与えましたか。行政は市民のためにあるもので、市民の意見を聞くことが行政の仕事だと思います。市民の声を聞く場をつくらなかったから署名活動になったわけです。文化ホールの存続問題は市民一人ひとりが考えないと大変なことになるのに、なぜ行政がもっと早く情報を伝えなかったのでしょうか。今はいろいろな情報をSNSで取得できますが、どれが本当でどれが嘘か市民は区別できないので、情報は正確に流してほしいとお願いします。市民の声を汲み上げることができれば住みよい市になると思います。どの自治体も総合計画をつくりますが、どの総合計画を見ても同じような内容です。もっと情報を発信してほしいし、集まって話し合える場所づくりが必要だと思います。お祭りの話も出ましたが、岸和田もこのコロナの2年間で曳き手がいなくなりお祭り離れしています。子どもたちもずっとマスクを着けている状態で特に1年生の子は顔全体を見たことがありません。そのこともこれから問題が起きてくると考えています。

10 年ほど前に新家東小出身の中学生と話し合いをしたことがあります。その子たちは泉南市に住んで不便な面はあるが、自然環境豊かなこのまちをいつまでも残したいと言っていて、それを聞いたときに自然環境は本当に大事だと実感しました。学校の統廃合の話も出ていますが、便利だからといってまとめるのではなく歴史的なことや自然環境も考えながら進めてほしいと思います。

会 長：松本委員からは話し合いの場がないことや情報を早く伝えてほしいというご意見をいただきました。そういう市を目指すことを踏まえた計画をつくれればと思います。皆さんのご意見をできる範囲でどこかに記載していくということでご納得いただければと思います。19・20 ページはワークショップ等の報告なので、このままの記載とさせていただきます。22 ページは「10 年後の将来像」ですが、案が3つあります。いずれかを皆様を選んでいただきたいと事務局は言っているのですが、この3つの案に縛られることなく、文言のアレンジ等自由にご提案くださって構いません。22 ページの3案は次回の冒頭にお聞きしますので、それまでに考えておいてください。21 ページは「まちづくりの視点」ということで3つの視点を事務局で考えてくださっていますが、こちらについてご意見を賜りたいと思います。キーワードでまとめるとすれば視点1は多様性やつながり、視点2は地域性や地域色、視点3は情報や安心・安全という言葉になりますが、いかがでしょうか。

上中委員：人口フレームを見ると少子高齢化の影響によって10年間で1万人減ると推計されています。それに合わせたまちづくりをするのか、それとも少子高齢化を防いで人口が増加するまちづくりをしていくのか、その辺りお聞きしたいと思います。

事務局：資料4をご覧ください。まちづくりの軸として「市民の暮らしの満足度が高く、幸せを感じられるまちとすることで、市民の定住によって人口減少を食い止め、持続可能なまちを目指す」と設定しています。上中委員のおっしゃるとおり人口フレームでは落ち込みが予測されていますが、少しでもそれを食い止めたいという思いがあります。少子高齢化の進行で人口減少は止めることができませんが、なるべく泉南市の人口を減らしたくないという思いでまちづくりの軸を設定しています。市民の暮らしの満足度が高く、幸せを感じられるまちになれば住民がSNS等で発信して、移住してこられる方が増えることにつながることもあるので、人口減少を食い止めることになるかと思えます。人口減少を抑えるために市民の満足度を上げると同時にいつまでも住み続けたいまちであるとアピールすることで外からも人を呼びたいという思いでこの基本構想をつくらせていただいております。

上中委員：ロングパークには人がたくさん来ますが、単なるにぎわいに過ぎず、定着していません。にぎわいから定着に切り換えていかなければならないと思います。また、人口減少を食い止めるためには財政を伴わなければ無理です。

川田委員：視点2に「人口も増加に転じることはないものと見込まれます」とあるのですが、

こう言われて市民が今から何かを泉南市のためにしていきたいという気持ちになるのかと感じました。泉南市は人口が衰退していくと突き付けるのではなく日本全体が少子高齢化で人口減少を前提としつつも、もう少し気持ちが明るくなるような表現に変えていただければと思います。ただ、危険度（治安の悪さ）に関してはきっぱり言ってほしいという思いがあります。「治安が悪い」を「落ち着いて住めない」に変えたということですが、そこはオブラートに包まず治安の悪さを率直に伝えるべきです。

事務局：視点2についてはポジティブな表現を工夫してみます。治安の悪さということですが、警察とタイアップして定期的に一斉検問を行い、また公園内へのバイク乗り入れ禁止の措置もいたしました。それ以降暴走等の違法行為は減っていると警察から報告を受けており、今後も継続的な安全対策や治安確保は当然行ってまいります。

会長：視点2は書きぶりをお考えくださるということです。治安については行政として問題を認識し、努力はされているようですので、基本計画や実施計画の中に安心・安全なまちづくりについてロングパークと絡める形で具体的に盛り込んでもよいかと思います。

中澤委員：人口減少を食い止めることに関連する話ですが、全国の出生率は1.3とテレビ番組で言っていました。明石市では子育てに関する「5つの無料化」を実施することで人口が増えているようです。岡山県の奈義町では2019年に出生率が2.95になりました。高校生まで医療費無償などが上昇の理由のようです。このような他市の調査や泉南市との比較も今後必要ではないかと思いました。

北村委員：21ページ「まちづくりの視点」ですが、悪いことは言っていないものの総花的で内容が他市と変わらず、泉南市独自の色が出ていません。国が示した政策をそのまま落とし込んで薄く書いたような印象が否めず、例えばDXにしても国から言われて書いているとすれば心配です。泉南市でDXを取り入れればどこよりも便利になり外から人が来て中の人も満足して住み続けるという図が描けない限り説得力がありません。泉南市のストロングポイントを出してほしいと思っており外から見るとロングパークやイオンはまさしくストロングポイントであるのに、お話を伺っていると住民はそのメリットを享受できておらずウィークポイントになってしまっている感じがします。

意識調査では「買物など、日常生活が不便」「通勤・通学など、交通が不便」の割合が高く出ていましたが高速道路があって駅がいくつもある、これもストロングポイントなのになぜウィークポイントと感じておられるのか不思議です。いずれにしても泉南市ならではの強みがほしいと思いました。

会長：ありがとうございました。案件については以上で終わりにしたいと思います。

### 3 その他

会 長：その他について事務局から何かございますか。

事 務 局：今後のスケジュールについて、前回お配りしましたスケジュール表では審議会の開催が8月までとなっておりますが、もっと議論を尽くしていただきたいということで延長させていただきたいと思います。皆様には8月を過ぎても来ていただくことになるかと思いますが、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。第3回の日程は後日ご連絡させていただきたいと思いますので、こちらもご協力くださいませう、よろしくお願いいたします。

会 長：スケジュールについてご質問等よろしいですか。私から提案がございます。泉南市の総合計画を審議していくのに私自身泉南市のことをあまり知らず、それで座長を務めるのは委員の皆様や市民の方々に失礼ではないかと反省し、事務局に車で泉南市を案内していただくようお願いしました。第3回審議会終了後に案内していただく予定ですので、希望する方は皆様も一緒にいただければと思います。

### 4 閉会

事 務 局：長時間にわたりいろいろなご意見をいただきましてありがとうございました。皆様の貴重なご意見をできる限り反映できるよう頑張りますので今後ご協力よろしくお願いいたします。以上で第2回泉南市総合計画審議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。